【筑西市】

校務DX計画

【現状】

筑西市のGIGAスクール構想は、インターネットに接続された1人1台の端末を効果的に活用し、教育の質を向上させることを目指しています。これまでの取り組みでは、授業改善やICTの活用を推進し、児童生徒の資質・能力の育成を図ってきました。

授業におけるICTの活用状況については、各学校でばらつきが見られますが、さらなる活用が期待される部分もあります。特に、教員のICT活用指導力の向上が求められており、これにより授業でのICT活用が一層進むことが期待されます。

また、教材研究や授業の準備・評価、校務におけるICT活用についても、進展が見られる一方で、さらなる改善が必要な部分もあります。特に、教員のICT活用指導力の向上と、校務の情報化による働き方改革が重要です。

さらに、児童生徒のICT活用能力を高める指導についても、進展が見られるものの、情報モラル教育やデジタル・シティズンシップ教育の推進が重要な課題となっています。

今後の望ましい校務の在り方としては、ICTを活用した授業改善をさらに推進し、教員のICT活用指導力を向上させることが求められます。また、校務の情報化による働き方改革を進め、教員の負担軽減と効率化を図ることが重要であると考えます。

【課題】

（１）クラウド環境の活用

筑西市では、デジタルドリル等のクラウドサービスの利活用が進んでいます。「Microsoft365」等のクラウドツールの環境整備も完了しているが、校務としては生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が進んでおらず、保護者との日程調整や提出物の受付など教職員の負担となっています。

（２）FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXでのやり取りを削減する方針としているが、外部の組織（事業者等）とFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。また、書面による押印も残存している状況です。

（３）校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

校務支援システムへ新入学児童生徒の名簿情報を登録する際にはデジタルデータを用いる方針としているが、一部には紙のデータを参照して、手入力する業務が残存している。

（４）次世代の校務システム導入に向けた検討

現行の校務システムは、データ連携等の他システムとの連携が容易ではなく、教職員の負担軽減や業務の効率化に課題があります。また、セキュリティ対策やクラウド対応、ゼロトラストなどの新たな情報環境への適応も急務であり、将来を見据えた柔軟なシステム構築が求められています。

【取組方針】

現状と課題から筑西市では、下記の通り校務ＤＸの推進を図っていく予定です。

（１）クラウド環境の活用

保護者との連絡や提出物の管理など、校務の中でも教職員の負担が大きい業務にクラウドツールを効果的に活用できるよう、保護者と教職員双方の利便性を重視したツールの選定と運用ルールの整備を進めます。まずは一部校でのPoC（概念実証）を通じて効果を検証し、段階的な展開を図ります。

（２）FAXでのやり取り・押印の見直し

外部組織とのFAX慣行や押印文化の見直しに向けて、まずは内部の業務フローを改善し、可能な範囲からペーパーレス化を推進します。外部には段階的な周知と代替手段の提示を行い、協力体制を構築しながらFAXや押印の廃止に向けた環境整備を進めます。

（３）校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

新入学児童生徒の名簿登録における手入力業務を解消するため、住民基本台帳など既存の行政データとの連携や、保護者からのデジタル申請フォームの活用を検討します。関係部署との調整を図り、入力作業の省力化とデータ精度の向上を目指し、教職員の負担を軽減します。

（４）次世代の校務システム導入に向けた検討

教職員の業務実態を丁寧に把握し、関係者との合意形成を図りながら、段階的に次世代校務システムの導入を進めます。ゼロトラストを基本としたクラウド活用型システムの検討を進め、学習系との連携や標準化を重視したPoC（概念実証）を通じて、より安全・効率的な校務環境を実現します。